

# 昭和36年度豚産肉能力検定成績(抄録)

宮川正夫 菅原兼太郎 大橋昭也

## 1. 目的

種雄豚の産肉性に関する経済的能力を把握し、能力の高い種豚の選抜、普及を図る。

## 2. 検定方法

当該繁殖の種豚から生産され、産子能力検定に合格した同親子豚中から雄雌各2頭づつ計4頭を選んで1組とした。下記8組について実施した。その検定豚の血統は次のとおりである。

組別	血統		生年月日
	父	母	
36-S-1	スイセル7 ホール ミシマ 1-3	東33-76 マグネット スイン	36, 3, 3
36-S-2	ジーエー ショーリュウ コント-2	東32-30 マグネット	36, 3, 31
36-S-3	スイセル7 ホール ミシマ 1-3	工一屋 第10 ローヤルホール	36, 4, 1
36-S-4	ジーエー ショーリュウ コント-2	東33-28 ヒストン ショイフル	36, 4, 1
36-S-5	東35-1 ツヒゴエー ラスフェルト	東33-47 マグネット スインホール	36, 4, 8
37-A-1	東35-1 ツヒゴエー ラスフェルト	東33-5 ラスフェルト アリムロス	36, 9, 2
37-A-2	テルハ チトリ ハーセン ミシマ2-2	東33-47 マグネット スインホール	36, 9, 19
37-A-3	東33-2 スイセル7 セネター	浜川 第38 タキヤエサクラ	36, 10, 14

なお、検定は、前期(体重20kg~50kg)と後期(体重50kg~90kg)とに区分し、この間、日本豚産肉能力検定研究会で規格統一した検定ノ号および検定ノ飼料を夫々給与した。

その地管理についても、同研究会で決定した方法によった。

## 3. 検定成績

(1) 飼料消費量および増体

組別	検定終了時の生後日数	検定所要日数	飼料要求量				1日平均増体量		
			前期	後期	全期間	全期間飼料消費量	前期	後期	全期間
36-S-1	197.75	121.75	2,902	4,020	3,657	256.0	493	653	573
36-S-2	185.75	119.25	2,597	3,885	3,333	233.3	538	630	587
36-S-3	193.75	120.50	2,745	3,816	3,339	233.7	502	606	581
36-S-4	191.00	115.75	2,701	3,654	3,248	227.4	515	696	601
36-S-5	192.25	113.25	2,572	3,827	3,298	230.8	553	678	618
36-A-1	213.00	127.50	3,242	4,001	3,676	259.6	457	684	549
36-A-2	211.00	122.50	3,779	3,914	3,425	240.2	483	665	572
36-A-3	209.25	118.00	3,014	3,718	3,417	249.5	505	688	576

(2) 屠体測定成績 (終点及判定は37.12.26現在結果による)

組別	屠肉		有鞭長			屠体	コース		大割肉片の割合			脂肪層の厚さ				屠体 審査 得点	総点 及 判定
	歩留	長	I	II	III		面積	周囲長	カマ	コース バラ	ハム	肩	背	腰	平均		
36-S-1	67.62	89.70	76.40	64.27	50.45	33.37	13.87	15.12	32.71	38.74	28.14	4.70	2.20	3.15	3.35	78.85	58 B下
36-S-2	68.45	89.37	75.17	62.70	48.20	32.25	15.52	16.07	33.82	35.38	30.78	4.15	2.27	2.82	3.08	79.07	70 B上
36-S-3	67.46	87.75	74.72	64.55	49.75	33.30	13.85	15.55	32.51	37.24	30.23	4.17	19.7	2.47	2.87	77.21	72 B上
36-S-4	67.41	87.47	75.51	65.70	50.70	31.87	16.07	15.97	32.86	37.10	30.03	4.42	2.25	2.77	3.13	79.50	78 B上
36-S-5	67.03	87.17	74.60	64.67	50.77	32.55	16.37	16.25	33.10	36.08	30.80	4.45	2.10	2.67	3.07	78.64	78 B上
36-A-1	68.01	87.57	73.05	62.43	48.00	33.70	14.52	16.25	32.67	38.20	27.12	3.82	2.07	2.60	2.86	78.51	57 B下
36-A-2	67.66	87.35	73.57	63.72	48.82	32.75	22.25	18.45	33.58	37.28	27.12	4.35	2.57	3.25	3.32	77.82	64 B
36-A-3	68.21	87.42	72.87	63.80	48.45	32.55	14.65	15.37	31.77	37.33	28.87	4.52	3.10	3.35	3.65	76.72	56 B下

#### 4. 種雄豚コーイー ショーリユール コンド-2号の産肉能力検定成績

昭和35年秋及び36年春検定を実施した本種雄豚の支配によって生産された6群又4頭の検定成績の累計値は下記のとおりである。

総合成績 総点 71 判定 B上

項目	単位	平均値	最高～最低	標準偏差	変異係数	
検定開始時日令	日	75.88 ± 1.18	85 ~ 66	5.79 ± 0.88	7.63 ± 1.10%	
検定終了時日令	日	192.75 ± 1.62	210 ~ 180	7.94 ± 1.14	4.11 ± 0.68	
1日平均増体重	g	601.5 ± 6.38	660 ~ 534	31.26 ± 4.51	4.51 ± 0.65	
飼料要求率	Kg	3.335 ± 0.03	3.692 ~ 3.009	0.17 ± 0.02	5.09 ± 0.73	
屠肉歩留	%	70.40 ± 0.51	74.7 ~ 66.7	2.52 ± 0.36	3.57 ± 0.51	
屠体長	CM	87.69 ± 0.42	92.7 ~ 82.8	2.08 ± 0.30	2.37 ± 0.34	
背腰長Ⅱ	CM	62.94 ± 0.44	67.2 ~ 58.8	2.19 ± 0.31	3.48 ± 0.35	
ロースの断面積	CM <sup>2</sup>	16.10 ± 0.38	19.2 ~ 12.8	1.90 ± 0.29	11.83 ± 1.72	
脂肪層の厚さ	肩	CM	4.50 ± 0.09	5.3 ~ 3.4	0.44 ± 0.06	9.80 ± 1.41
	背	CM	2.46 ± 0.10	3.6 ~ 1.2	0.51 ± 0.07	20.80 ± 3.01
	腰	CM	3.18 ± 0.10	4.4 ~ 2.2	0.52 ± 0.07	16.39 ± 2.36
大割肉片の割合	肩	%	33.85 ± 0.22	36.9 ~ 31.9	1.08 ± 0.15	3.19 ± 0.46
	ロースハツ	%	35.81 ± 0.28	38.7 ~ 33.0	1.41 ± 0.20	3.93 ± 0.56
	ハム	%	30.34 ± 0.21	32.8 ~ 28.2	1.05 ± 0.15	3.46 ± 0.49

## 5. 検定豚調査成績相互の関連について

豚の産肉性に關する経済的能力の中で、特に重要な因子と考えられる飼料要求率および背部脂肪層の厚さ、ロースの断面積等に関する相互の関連について、昭和36年度までに検定を終了した52頭の調査成績から、分析を行い、下記のような結果を得た。

項目	相関係数	有意水準
飼料要求率と背脂肪の厚さ	+0.326 ± 0.012	0.0025
飼料要求率と屠体長	-0.236 ± 0.013	0.01
背脂肪の厚さとロース断面積	-0.897 ± 0.028	0.001
背脂肪の厚さと1日平均増体重	+0.702 ± 0.070	0.001

- 1) 飼料要求率が悪くなれば、背脂肪の厚さも増すという正の相関が認められ、又、生体重90kg時の屠体長の長いもの程、即ち、伸びのあるものは、短いものに比べて、1kgの増体所需飼料量が少なくて済むという負の相関が認められたが、有意水準が低いので、例数を増して更に調査したい。

2) 背脂肪の厚さと、ロースの断面積との間には、高い負の相関が認められ、ロースの断面積の大きいものは、背脂肪が薄いという結果を得た。又、背脂肪の厚さと/日平均増体重との間には、高い正の相関があり、これは、従来発育の早い豚は脂肪は脂肪が厚いといわれていることと良く一致した。